

■：3年ぶりの参院選。自民が圧倒的勝利をおさめて衆議院とのねじれを解消、安倍首相の政権基盤を強化する結果になりました。しかし民主党のあまりにも哀れな惨敗、どうやら理想的な2大政党対立の図式は当分望めそうもありません。自民は約1年ごとに首相の交代を繰り返して、国民もイヤ気をさしていたわけですから、今後はじっくり腰をすえて政治をうまく動かしてほしいもの。

■：2大政党といえは、戦後革新の雄として保守と対決してきた社民党（旧社会党）がたった1議席に。仏首相クレマンソーの名言で、「20歳の青年層は革新、40歳台からは保守を」とありますが、どうやらわが国では通用しなくなりました。高齢者がせつせと投票場に足を運ぶ図式これでは国そのものが元気を失って徐々に衰退するのでは。小沢型の政治家が消えていく。ついでに橋下型も。そうは行きませんか。

■：敗戦後しばらくの間、米ドルが1ドル360円の固定相場が続きました。今は1ドル1100円前後の円安相場が。海外旅行でもしない限り毎

日の生活に影響なし、と思ってしまう。わが国の原油輸入価格が上昇、レギュラーガソリンの店頭値段が1リットル155・2円に上昇とか。マイカー族にとって大きな痛み。また原油価格に連動する液化天然ガス（LNG）価格も上昇とあって、これは数カ月の時間差で電気代やガス料金も自動的に値上げされる運命に。当方、つましく生活するように心がけているのに、そうは問屋がよろさない……。

■：日銀は7月に開いた金融政策決定会合で、景気は「緩やかに回復しつつある」という表現に上方修正しました。今年に入って「弱めに推移」「下げ止まりつつある」「持ち直しつつある」といった表現が続き、やっと「回復しつつある」になった訳で、実態経済が「判断」通り推移してくれば、こんな良い事はありませんがね。

■：米国の、あの「自動車の街」デトロイト市（ミシガン州）が財政破綻を起こし「斜陽の街」に転落したそうです。かつてはフォード・モーターやクライスラー、ゼネラル・モーターズなど自動車販売・製造で世界に君臨した都市がなんとも哀れ

な衰退ぶり。1960年代、同市の人口は180万人で、ニューヨークに次ぐ全米有数の大都市として繁栄を享受していたのに、今や約70万人に減って、いわば「ゴーストタウン」と化したそうです。車産業で働く工場労働者の週休2日制完全実施も同市から。世界中のホワイトカラーは指をくわえてうらやましがったものでした。

■：米調査機関「ピュー・リサーチ・センター」がアジア各国で実施した世論調査によると、日本に良い印象を持っている人がマレーシア、インドネシア、フィリピン、オーストラリアで約80%、パキスタン51%、ところが韓国は22%、中国となるとたった4%。隣国の国々がなんとも厳しい反日感情を持っているようで、これほどの「日本嫌い」の原因はいったい何なのでしょう。戦争中の旧日本軍の行為について日本政府が「十分に謝罪したか」の質問に、中国人は78%、韓国人は98%が「そうは思わない」と答えたそうです。60数年前の歴史的事実にこだわる民族性に、逆に感心させられます。今日本に留学中の韓国の学生たち、優秀で好感の持てる若者ばかりですけどね。

月刊公論 MONTHLY
KORON

9月号 第46巻9号

平成25年9月1日発行 毎月15日発売
定価890円(本体848円) 送料84円

発行人 大 中 吉 一 編集人 田崎義信 土井正彦
発行所 株式会社社界通信社
〒160-0008東京都新宿区三栄町25ボナフラワービル
TEL.03-5379-5611(代)、FAX.03-5379-5616
印刷所 株式会社廣済堂
取次店 トーハン/日本出版販売/大阪屋/栗田出版販売

●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。